2018

Helix Swarm2018.1 設定ガイド

パッケージインストール編

目次

はじめに 2
設定の流れ 2
1. Helix Swarm の設定 3
1.1 シェルスクリプトの実行 3
1.2 対話形式による設定 3
1.2.1 接続先 Perforce サーバの指定 3
1.2.2 Helix Swarm 管理用ユーザの指定 3
1.2.3 Helix Swarm 管理用ユーザの作成 3
1.2.4 Helix Swarm 管理用ユーザのパスワード設定 3
1.2.5 スーパー権限ユーザでログイン 4
1.2.6 Helix Swarm 管理用ユーザ用のグループ作成 4
1.2.7 ホスト名の指定 4
1.2.8 メールサーバの指定 4
2. Helix Swarm 用トリガの設定 5
2.1 Helix Swarm トリガスクリプトの移動 5
2.2 トリガトークンの確認 5
2.3 トリガ用設定ファイルの編集 6
2.4 トリガスクリプト実行確認 7
2.5 トリガテーブルの設定 7
3. メール配信設定 9
4. 新機能設定 11
4.1 通知設定のデフォルト値変更 11
4.2 レビュークリーンアップ 11

株式会社 東陽テクニカ www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6 本社(代表) TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

はじめに

本ドキュメントは、Linux パッケージを使用した Helix Swarm のインストール後に必要な設定手順を記述しています。

設定の流れ

Helix Swarm インストール後、必須となるトリガ設定を行っていただくことで、基本的な動作（プロジェクト作成、レビュー依頼、承認など）は使用することができます。標準的に使用されるメール通知、もしくは、必要に応じて新機能の設定を追加します。

必須 Helix Swarm の設定

Helix Swarm と Helix Core の連携に設定ファイルをシェルスクリプトから作成します。
作業対象サーバマシン： Helix Swarm

必須 Helix Swarm 用トリガ設定

Helix Swarm と Helix Core の連携に必要なトリガ設定を実施します。
作業対象サーバマシン： Helix Core

任意 メール配信設定

Helix Swarm からのメール通知を設定します。
作業対象サーバマシン： Helix Swarm

任意 新機能設定

この手順では、通知制御、レビュークリーンアップの設定を紹介します。
作業対象サーバマシン： Helix Swarm

株式会社 東陽テクニカ www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6 本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

1. Helix Swarm の設定

作業サーバマシン：Helix Swarm

1.1 シェルスクリプトの実行

Linux 用パッケージを利用したインストールの場合、次のシェルスクリプトを使用して対話形式で Helix Swarm の設定を行います。以下のコマンドからシェルスクリプトを実行します。

- **格納場所**
  /opt/perforce/swarm/sbin/
- **設定用スクリプト名**
  configure-swarm.sh
- **実行コマンド例**
  # /opt/perforce/swarm/sbin/configure-swarm.sh

1.2 対話形式による設定

シェルスクリプト内で実行される対話形式の内容は以下のとおりです。環境に適した値を入力し、シェルスクリプトを終了させます。

1.2.1 接続先 Perforce サーバの指定

Helix Versioning Engine address (P4PORT) [1666]: ssl:helix_core:1666

接続先 Helix Core サーバを指定します。上記は"ssl:helix_core:1666"を指定した例となります。

1.2.2 Helix Swarm 管理用ユーザの指定

Helix username for the Swarm user [swarm]:

Helix Swarm 管理用の Helix Core ユーザを指定します。上記はデフォルトで指定されている値の"swarm"を指定した例となります。

***プロテクションテーブルの設定によっては、シェルスクリプト実行前に手動でのユーザ作成が必要となります。**

1.2.3 Helix Swarm 管理用ユーザの作成

User swarm doesn't exist. Create it? (y/n) [y]

手順 1.2.2 で指定した Helix Swarm 管理用ユーザが Helix Core サーバ上に存在しない場合、ユーザ作成の要否を求められます。上記は"swarm"ユーザをスクリプト実行とともに作成しています。

***このユーザには、"admin"権限が付与され、Helix Swarm 管理にのみ利用されます。**

***このユーザは Helix Core ライセンスを使用するため、バックグラウンドライセンスの申請が可能となります。**

1.2.4 Helix Swarm 管理用ユーザのパスワード設定

株式会社 東陽テクニカ www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6 本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

Enter Helix password (not a login ticket) for the Swarm user (typing hidden):
Confirm Helix password (not a login ticket) for the Swarm user (typing hidden):
ここでは、手順 1.2.2 で指定した、もしくは、手順 1.2.3 で作成した Helix Swarm 管理用ユーザのパスワードを入力します。

1.2.5 スーパー権限ユーザでログイン

Helix username for the super user [super]:
Helix password or login ticket for the super user (typing hidden):
後続の処理を進めるため、スーパー権限ユーザで Helix Core サーバへログインします。

1.2.6 Helix Swarm 管理用ユーザ用のグループ作成

Create a long-lived ticket group for the Swarm Helix user? (y/n) [y]
Helix Swarm 稼働中に、Helix Swarm 管理用ユーザが使用する認証用チケットファイルの有効期限が無効にならないよう、Helix Core グループを使用して無期限に設定する必要があります。"y"を選択してグループを作成します。

1.2.7 ホスト名の指定

Hostname for this Swarm server [swarm.sample.com]:
Helix Swarm へ接続するユーザが利用するホスト名を指定します。理想としては、完全修飾ドメイン名での指定となります。

1.2.8 メールサーバの指定

Mail relay host (e.g.: mx.yourdomain.com): mail.swarm.sample.com
Helix Swarm で利用するメールサーバを指定します。もし、メールサーバが存在しない場合、手順 1.2.7 で指定したホスト名と同一の値を指定します。

スクリプトが完了すると、次のディレクトリに Helix Swarm 用の設定ファイル（config.php）が作成されます。今後、Helix Swarm に関する設定を変更する場合は、このファイルを編集します。

- **格納場所**
  /opt/perforce/swarm/data/
- **設定用スクリプト名**
  config.php

株式会社 東陽テクニカ www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6 本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

2. Helix Swarm 用トリガの設定

作業サーバマシン：Helix Core

2.1 Helix Swarm トリガスクリプトの移動

＊注意点

トリガスクリプトは、Helix Core サーバで実行されるため、Helix Core サーバにインストールされています。この点を注意してください。

Linux パッケージを使用してトリガスクリプトをインストールした場合、以下のディレクトリへインストールされます。このスクリプトファイルを設定ファイル（swarm-triggers.conf）が配置されているディレクトリへコピーします。

- **トリガスクリプトインストール先**
  /opt/perforce/swarm-triggers/bin

この手順では、既存のトリガスクリプトと設定ファイルが以下のディレクトリに配置されている例で説明しています。

- **既存トリガスクリプトと設定ファイルの配置先**
  /opt/perforce/etc
- **トリガスクリプトのコピーコマンド**

```
# cd /opt/perforce/etc
# cp /opt/perforce/swarm-triggers/bin/swarm-trigger.pl .
```

2.2 トリガトークンの確認

スーパー権限ユーザで Helix Swarm へログインし、トリガ設定に必要なトリガトークンを確認します。Web ブラウザから Helix Swarm へアクセスします。

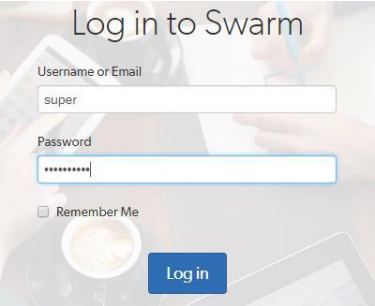

図 1 Helix Swarm ログイン画面

画面右上のユーザメニューから[About Swarm]を選択します。

株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

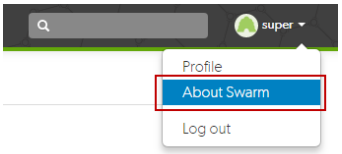

図 2 ユーザメニュー

図 3 のように、インストールされた Helix Swarm の情報が表示されるため、赤枠からトリガトークンの情報を確認し、テキストファイルに一時保管します。

図 3 トリガトークン確認画面

2.3 トリガ用設定ファイルの編集

Linux パッケージを使用して Helix Swarm 用トリガをインストールした場合、設定ファイルは以下のディレクトリへインストールされます。この設定ファイル（swarm-triggers.conf）が編集します。

- **設定ファイルインストール先**
  /opt/perforce/swarm/etc
- **設定ファイル名**
  swarm-trigger.conf
- **コマンド例**
  # vi /opt/perforce/swarm/etc/swarm-trigger.conf

以下、2 か所の内容を編集します。

- **編集箇所**
  SWARM_HOST=http://swarm.sample.com
  SWARM_TOKEN="9036E74B-7580-3B4D-ECB3-94A10DD64941"
  …
- **設定値概要**

株式会社 東陽テクニカ www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6 本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

SWARM_HOST：　手順 1.2.7 のホスト名に合わせます。

SWARM_TOKEN：　手順 2.2 で取得したトリガトークンを入力します。

2.4　トリガスクリプト実行確認

設定ファイル編集後、次のコマンドを実行し、トリガスクリプトが正しく動作することを確認します。

- **トリガスクリプト実行例**

```
# /opt/perforce/swarm/etc/swarm-trigger.pl -t ping -v 0
```

- **期待する結果**

  何もメッセージが返却されないことを確認します。

2.5　トリガテーブルの設定

手順 2.4 でトリガスクリプトの実行環境が整ったことを確認した後、最後に Helix Core のトリガテーブルへトリガ設定を追加します。追記する内容は、次のトリガスクリプトを使用して確認します。

- **追記内容確認コマンド**

```
# /opt/perforce/swarm/etc/swarm-trigger.pl -o
```

- **出力結果例**

```
swarm.job form-commit job "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t job -v %formname%"
swarm.user form-commit user "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t user -v %formname%"
swarm.userdel form-delete user "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t userdel -v %formname%"
swarm.group form-commit group "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t group -v %formname%"
swarm.groupdel form-delete group "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t groupdel -v %formname%"
swarm.changesave form-save change "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t changesave -v %formname%"
swarm.shelve shelve-commit //... "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t shelve -v %change%"
swarm.commit change-commit //... "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t commit -v %change%"
swarm.shelvedel shelve-delete //... "%quote%/opt/perforce/etc/swarm-trigger.pl%quote% -t shelvedel -v %change% -w %client% -u %user% -d %quote%%clientcwd%%quote% -a %quote%%argsQuoted%%quote% -
```


株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

s %serverVersion%"

...

確認した上記結果を"p4 triggers"コマンドを使用してトリガテーブルに追記します。

- **トリガテーブル設定コマンド**

  # p4 -u super -p server_name:port triggers

  ＊"super"には管理者ユーザ、"server_name"には対象の Helix Core サーバを指定します。

記入後、トリガテーブルを保存して Helix Core サーバを再起動します。

- **Helix Core サーバ再起動コマンド**

  # p4 -u super -p server_name:port admin restart

  ＊"super"には管理者ユーザ、"server_name"には対象の Helix Core サーバを指定します。

株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

3. メール配信設定

作業サーバマシン：Helix Swarm

Helix Swarm のメール配信設定は、設定ファイル（config.php）の mail ブロックによって制御されています。インストール直後、mail ブロックは次のように設定されています。

- **インストール直後の mail ブロック**

```
'mail' => array(
        'transport' => array(
        'host' => 'mail.swarm.sample.com',
        ),
 ),
```

メール配信を行うためには、上記の初期設定に加えて接続情報を追記する必要があります。必要な追記内容は以下のとおりです。

- **追記後のメールブロック**

```
 'mail' => array(
        'transport' => array(
        'name' => 'mail.swarm.sample.com',
        'host' => 'mail.swarm.sample.com',
        'port' => '587'
        'connection_class' => 'plain',
        'connection_config' => array(
                'username' => 'mailadmin',
                'password' => 'pass',
                'ssl' => 'tls',  //SSL 使用時のみ
                ),
        ),
 ),
```

- **設定概要**

name：　SMTP サーバの名称を設定

host:　SMTP サーバのホスト名、もしくは、IP アドレスを設定

port:　SMTP サーバのポート番号を設定

connection_class: 認証方式を設定

connection_config（username）：　SMTP 認証ユーザを設定

株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

connection_config（password）：　SMTP 認証パスワードを設定

connection_config（ssl）：　tls、もしくは、ssl を設定 //SSL 接続の場合のみ

設定ファイルの編集終了後、設定を反映させるために、Apache を再起動します。

- **Apache 再起動コマンド**
  $ sudo apachectl restart

株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

4. 新機能設定

ここでは、新機能の内、通知設定のデフォルト値変更とレビュークリーンアップを紹介しています。

対象サーバマシン：Helix Swarm

4.1 通知設定のデフォルト値変更

Helix Swarm では、ユーザ自身が必要な通知を選択して受け取ることができますが、デフォルト設定は、全ての通知設定が選択されています。しかし、バージョン 2018.1 では、サーバ管理者がデフォルト値を事前に必要な通知設定を定義できるため、不要な通知を未然に防ぐことができます。

通知設定は、設定ファイル（config.php）の notifications ブロックによって制御されています。ここでは、次の３つの項目に対する設定例を紹介しています。

- **デフォルト未選択とする項目**
  - ・自分は作成者であり、かつレビューに投票が入った
  - ・自分のコメントに「いいね」がついた
  - ・自分はレビュー担当者であり、かつレビューで使用されるファイルが更新された
- **設定例**

```
'notifications' => array(
        'review_vote' => array(
                'is_author'      => 'Disabled',
        ),
        'review_comment_liked' => array(
                'is_commenter'      => 'Disabled',
        ),
        'review_files' => array(
                'is_reviewer'      => 'Disabled',
        ),
),
```

設定ファイルの編集終了後、設定を反映させるために、Apache を再起動します。

4.2 レビュークリーンアップ

Helix Swarm ではレビュー承認と同時に Helix Core サーバへレビュー対象ファイルをサブミットすることができますが、以前のバージョンでは、レビュー依頼時のチェンジリストを手動で削除しなくてはなりませんでした。しかし、バージョン 2018.1 からは、対象のチェックボックスにチェックを入れることで、サブミットと同時にレビュー依

株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117

頼時のチェンジリストを削除することができます。ここでは、このチェックボックスのチェックをデフォルトでオンとする設定を紹介しています。

レビュークリーンアップは、設定ファイル（config.php）の review ブロックによって制御されています。

- **設定例**

```
'reviews' => array(
 'cleanup' => array(
            'mode'          => 'user',
            'default'       => true,
            'reopenFiles' => false,
            ),
 ),
```

- **設定値概要**

cleanup(mode):	クリーンアップモードの選択 user モードはチェックボックスを表示、auto モードは非表示。
cleanup(default):	user モード時は、true（チェックオン）、false（チェックオフ）。 auto モード時は、true（自動削除）、false(削除なし)
reopenFiles:	チェックアウト中の場合、デフォルトチェンジリストへファイルを再オープン

(*reopenFiles 機能は Swarm 管理用ユーザにスーパー管理者権限を付与する必要があります。)

(*詳細情報が必要な場合、弊社テクニカルサポートまでお問合せください。)

- **Apache 再起動コマンド**

$ sudo apachectl restart

以上の作業にて、Helix Swarm インストール後の設定は終了となります。

以上

株式会社 東陽テクニカ　www.toyo.co.jp
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6　本社（代表）TEL 03-3279-0771
大阪支店 TEL 06-6399-9771 / 名古屋営業所 TEL 052-772-2971 / 宇都宮営業所 TEL 028-678-9117